

## IV 総括

### 1 市民意識調査と転出者意識調査の結果比較から見えてくる背景

2つの調査結果の比較から、本市の未婚率の上昇や出生率の低下に、次のような背景があることが分かった。

#### (1) 結婚希望の実現

##### ア 結婚意思の有無、結婚意欲の強さ

- ・本市在住者（市民）の結婚意思は、未婚男性 82.7%、未婚女性 81.1%で、8割を超える。一方、転出者の結婚意思は、未婚男性 90.2%、未婚女性 89.0%で、約9割となり、転出者の方が、男女とも約8ポイント高い。
- ・「すぐにでも結婚したい」又は「ある程度の年齢までに結婚したい」という回答の合計は、本市在住（市民）の未婚男性では、44.9%、未婚女性では、40.6%で、4割を超える。一方、転出者は、未婚男性 51.2%、未婚女性 53.4%で、5割を超え、転出者の方が、男女とも高い。
- ・「すぐにでも結婚したい」という回答は、本市在住（市民）の未婚女性では、12.2%。一方、転出者の未婚女性は、20.5%で、転出者の方が、8ポイント以上高い。
- ・転出者の方が、本市在住者（市民）よりも、結婚意思のある者や結婚意欲の強い者が多い。

##### イ 結婚の見通し

- ・「ほぼ、理想の年齢で結婚できそう」という回答は、本市在住（市民）の未婚女性では、12.3%。一方、転出者の未婚女性では、23.6%で、転出者の方が、10ポイント以上高い。
- ・「結婚できそうにない」又は「理想の年齢よりも遅くなりそう」という回答の合計は、本市在住（市民）の未婚男性では、59.4%、未婚女性では、63.0%で、約6割ある。一方、転出者は、未婚男性 53.7%、未婚女性 47.2%で、約5割となり、転出者の方が、男女とも低い。特に、女性は、15ポイント以上低い。
- ・転出者の方が、本市在住者（市民）よりも、結婚見通しの良い者が多い。
- 結婚意思のある者や結婚意欲の強い者、結婚見通しの良い者が転出し、結果として、本市の未婚化・晩婚化が進み、本市の出生率の低下に繋がっている可能性がある。

…【本市の未婚率や出生率にマイナスの要素】

#### (2) 希望する子どもの数・現実に持てると思う子どもの数

##### ア 希望する子どもの数

- ・希望する子どもの数の平均値は、本市在住者（市民）では、男性 2.01 人、女性 2.03 人、全体では 2.02 人。一方、転出者は、男性 2.07 人、女性 2.02 人、全体では 2.04 人で、男性は、転出者の方が高く、女性は、本市在住者（市民）の方が高い。
- ・女性では、本市在住者（市民）の方が、わずかではあるが、希望する子どもの数が多い。

##### イ 現実に持てると思う子どもの数

- ・現実に持てると思う子どもの数の平均値は、本市在住者（市民）では、男性 1.67 人、女性 1.74 人、全体では 1.71 人。一方、転出者は、男性 1.68 人、女性 1.60 人、全体では 1.63 人で、希望と同様に、男性は、転出者の方が高く、女性は、本市在住者（市民）の方が高い。
- ・女性では、本市在住者（市民）の方が、現実に持てると思う子どもの数が多い。
- 希望する子どもの数・現実に持てると思う子どもの数が多い者が、本市に在住している。

…【本市の出生率にプラスの要素】

⇒ 希望する子どもの数・現実に持てると思う子どもの数が多い者が、本市に在住する一方で、本市において出生率が低下している状況があることから、本市では、結婚意思のある者や結婚意欲の強い者、結婚見通しの良い者の転出が、結果として、出生率により大きな影響を及ぼしていると考えられるのではないか。

## 2 市民意識調査と転出者意識調査の結果から見えてくる課題

2つの調査結果から、主に次のような課題があることが分かった。

### (1) 市民意識調査の結果から見えてくる課題（少子化に係る課題）

#### ア 結婚希望の実現と男女の出会い

○未婚男性、未婚女性の8割以上に、「結婚意思」がある。

- ・一方で、約6割が、「結婚できそうにない」又は「理想の年齢よりも遅くなりそう」と回答し、「結婚希望の実現は困難」と考えている。
- ・「結婚希望の実現は困難」な理由は、男女とも「結婚したいと思う相手と出会えそうにないから」という回答が最も多い。
- ・独身男性の約8割、独身女性の約7割が、現在交際相手が「いない」と回答。うち4割近い男性に交際経験がない。
- ・交際や結婚につながるような異性との出会いについて、男女とも「ないと思う」という回答が、「あると思う」という回答を上回る。
- ・「ないと思う」理由は、男女を合わせると、「自分が地域の交流活動に積極的でないから」という回答が最も多く、自分自身が出会いに積極的でないことが理由となっている。

⇒ 出会いの機会がないことや、出会いの機会への消極性を理由に、未婚化・晩婚化が進み、結果として、本市の少子化に繋がっているのではないか。

#### イ 希望する子どもの数を持ってない

○希望する子どもの数の平均値は、男性2.01人、女性2.03人、全体では2.02人。

- ・一方で、現実に持てると思う子どもの数の平均値は、男性1.67人、女性1.74人、全体では1.71人となり、希望に比べ、男性は0.34ポイント、女性は0.29ポイント、全体では0.31ポイント減少。「現実に持てると思う子どもの数は一人」又は「子どもを持つ予定はない」という回答は増加した。
- ・「希望する子どもの数は一人」、「子どもは欲しくない」、又は「希望する子どもの数を持ってない」理由は、男女を合わせると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」という回答が最も多く、次いで、「所得に不安があるから」という回答が多い。男女とも、経済的負担が、現実に持てると思う子どもの数に影響を及ぼしている。
- ・加えて女性は、「妊娠・出産・子育ては肉体的・精神的な負担が大きいから」、「自分に自信が持てないから」という回答も多い。

⇒ 経済的負担や妊娠・出産・子育てへの不安などを理由に、希望する子どもの数が持てず、結果として、本市の少子化に繋がっているのではないか。

#### ウ 希望するライフコースの実現

○希望するライフコースでは、男女とも「暮らしの穏やかさ、生活の落ち着き」を最も重視し、次いで、男性は、「長く続けられる仕事を持つこと」、「多くの収入が得られること」、女性は、「背伸びしないで、自分に見合った仕事を持つこと」、「多くの収入が得られること」を重視すると回答。

- ・一方で、男女とも、6割以上が、「竹原市で希望するライフコースの実現は困難」と回答。

⇒ 本市で希望が叶えられないことを理由に、若者や子育て世代の転出が進み、結果として、本市の少子化に繋がっているのではないか。

## エ 就業と地域選択

○竹原市での就業希望は、男女とも3割を超え、竹原市外での就業希望を、男女とも上回る。

- ・一方で、女性の約3割が、「竹原市外で働きたかった」と回答。男性を約10ポイント上回る。
- ・女性が竹原市外での就業を希望する理由は、「竹原市外に就職したい企業、働きたい仕事があったから」という回答が最も多く、男性に比べ、20ポイント以上高い。女性が就職したい企業、働きたい仕事が、竹原市に少ない可能性がある。

⇒ 「仕事」を理由に、若い女性の転出が進み、結果として、本市の少子化に繋がっているのではないか。

## (2) 転出者意識調査の結果から見えてくる課題（定住に係る課題）

### ア 就業と地域選択

○自分らしいと思える仕事や働きたい職種が竹原市にあった場合の竹原市居住の意向は、7割を超える。

- ・竹原市から転出したタイミングは、「自分の就職・転職・転勤など」という回答が最も多い。
- ・転出者意識調査では、竹原市外での就業希望が、竹原市での就業希望を上回る。
- ・竹原市外での就業を希望する理由は、「竹原市外に就職したい企業、働きたい仕事があったから」、「竹原市外に出たいと思っていたから」という回答が同程度。
- ・女性が「竹原市外に出たい」理由は、「就職したい企業を見つけるのは竹原市外が有利になると思ったから」という回答が最も多く、男性に比べ、15ポイント以上高い。女性が就職したい企業、働きたい仕事が、竹原市に少ない可能性がある。

⇒ 「仕事」を理由に、若者や子育て世代の転出が進み、転出超過に繋がっているのではないか。

⇒ 「仕事」を理由に、若い女性の転出が進み、転出超過に繋がっているのではないか。

### イ 暮らしやすくするための竹原市の改善点

○竹原市や竹原市で住んでいた地域への愛着について、「ある」又は「まあまあある」という回答は、8割を超える。

○竹原市の住みやすさについて、「住みやすかった」又は「まあ住みやすかった」という回答は、6割を超える。

- ・竹原市の改善点は、「交通利便性（鉄道・バスなどの利用のしやすさ）」という回答が最も多く、次いで、「仕事の見つけやすさ」、「医療環境（安心して出産・子育てができる）」、「買い物の利便性（大型商業施設での買い物のしやすさ）」という回答が多い。
- ・「仕事」、「便利さ」、「医療環境（安心して出産・子育てができる）」は、若者や子育て世代の定住に、大きく関わる課題であると考えられる。

⇒ 「仕事」、「便利さ」、「医療環境」などを理由に、若者や子育て世代の転出が進み、転出超過に繋がっているのではないか。